

II 生態系調査

1. 調査概要

(1) 目的

朝霞市基地跡地公園の計画にあたり、現地調査から敷地内の生態的な特徴を把握し、公園計画と野生動植物との共存を図ることを目的とする。

(2) 対象種

生態調査は、鳥類および大型の昆虫類を対象に行った。その選定理由は以下の通りである。

- ・比較的大型であることから目につきやすく、本計画地のような広範囲の生態調査の対象種群として適している。
- ・生息環境との関連性に関する知見も豊富であることから、計画地内の環境評価にも適している。

(3) 調査時期

現地調査は、鳥類・大型の昆虫類、それぞれの適期に実施した。

鳥類については、秋期（平成 21 年 10 月）、冬期（平成 22 年 1～2 月）、春期（平成 22 年 4～6 月）に行った。

昆虫類については、秋期（平成 21 年 10 月）および、春期～夏期（平成 22 年 4～9 月）に行った。

なお、それぞれの調査で確認された別の分類群の記録（例えば、大型の昆虫類調査時の鳥類の記録）も集計に加えることとした。

2. 調査結果

(2) 鳥類調査

1) 調査の方法

朝霞市基地跡地公園予定地における鳥類の生息状況を把握するために、秋期・冬期・春期に現地調査を行った。

調査は、敷地内を1名の調査員が踏査して行った。その際、姿や鳴き声などにより把握された個体について、その種名、個体数、行動などを記録するとともに、確認位置を地図上に記録した。なお、8倍程度の双眼鏡を補助的に使用した。

2) 調査結果

①確認種

平成21年10月13・29日の秋期調査、平成21年1月27日・2月17日の冬期調査、平成22年4月27日・5月25日・6月8・22日の春期調査の結果、表1-1に示す6目20科32種が確認された。

表1-1 朝霞市基地跡地公園予定地において確認された鳥類の一覧（平成21～22年度）

目名	科名	種名	跡地本体				飛び地部分			希少種		外来種
			秋期	冬期	春期	その他	秋期	冬期	春期	国 RL	県 RDB	
タカ	タカ	オオタカ	●							NT	NT2	
チドリ	シギ	ヤマシギ		●							NT2	
ハト	ハト	キジバト	●	●	●		●	●	●			
		ドバト		●								○
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	●							VU	VU	
キツツキ	キツツキ	コゲラ	●	●	●			●	●			
スズメ	ツバメ	ツバメ			●				●			
		イワツバメ				●						
	セキレイ	キセキレイ	●				●					
		ハクセキレイ			●							
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	●	●	●		●	●	●			
	モズ	モズ	●									
ツグミ		ルリビタキ		●								
		ジョウビタキ	●	●				●				
		トラツグミ		●								
		アカハラ		●								
		シロハラ		●					●			
		ツグミ		●					●			
		ウグイス	ウグイス		●							
ヒタキ	キビタキ	●										
エナガ	エナガ	●	●	●								
シジュウカラ	シジュウカラ	●	●	●		●	●	●				
メジロ	メジロ	●	●	●		●	●	●				
ホオジロ	ホオジロ	●	●	●				●				
	アオジ	●	●	●								
アトリ	カワラヒワ	●	●	●								
	シメ	●	●	●				●				
ハタオリドリ	スズメ		●	●					●			
ムクドリ	ムクドリ		●	●								
カラス	オナガ		●	●								
	ハシボソガラス						●	●				
	ハシブトガラス	●	●	●		●	●	●				
6	20	32	17	23	16	1	7	12	8	2	3	1
			31				15					

国RL VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧
 県RDB CR: 絶滅危惧ⅠA類 NT2: 準絶滅危惧

②渡り区分

記録状況から、各確認種の渡り区分を以下のように設定した。

・留鳥

キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシブトガラスの 11 種が該当すると考えられる。ドバトについても、調査地内には少ないが、周辺地域では留鳥であると考えられる。

・夏鳥

ツバメ 1 種が該当すると考えられる。イワツバメについても、調査地内には少ないが、周辺地域では夏鳥の可能性があると考えられる。

・冬鳥

ヤマシギ、ルリビタキ、ジョウビタキ、トラツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、アオジ、シメの 10 種が該当すると考えられる。

飛び地部分で確認されたハシボソガラスについても、冬鳥の可能性が高い。

オオタカについても、一般的な習性から、周辺地域には冬期のみ生息すると考えられる。

・春・秋のみの通過鳥

ヨタカ、キセキレイ、キビタキの 3 種については、渡り途中の立ち寄りの可能性が高い。秋のみに確認されたモズについても、冬期には確認されず、渡り途中であった可能性がある。

③希少種

環境省レッドリスト (RL) および埼玉県レッドデータブック (RDB) に記載されている種は、以下の 3 種であった。なお、埼玉県 RDB の地帯区分では、本調査地は「台地・丘陵地」となる。

・ヨタカ (ヨタカ目ヨタカ科)

秋期調査中 (平成 21 年 10 月 13 日) に、環境省 RL で絶滅危惧Ⅱ類 (VU)、埼玉県 RDB で絶滅危惧Ⅱ類 (VU) にあたるヨタカが確認された。本種は、本来は平地から低山の疎林、林縁などに渡来する夏鳥であるが、「低地帯での繁殖例は近年全くない」こと、「春・秋の渡りの季節には、低地帯の林で短期間観察されることがある」(いずれも埼玉県 1996) ことから、今回の記録も移動中の個体を確認したものと考えられる。

・オオタカ (タカ目タカ科)

秋期調査中 (平成 21 年 10 月 29 日) に、環境省 RL で準絶滅危惧 (NT) ・埼玉県 RDB で準絶滅危惧 (NT2) にあたるオオタカが確認された。本種は、冬期には確認されず、冬期調査中に食痕 (= 獲物を捕らえた跡) なども確認されなかったことから、秋期は偶発的な飛来の可能性が高い。

・ヤマシギ (チドリ目シギ科)

冬期調査中に、埼玉県 RDB で準絶滅危惧 (NT2) にあたるヤマシギが確認された。確認場所は、プラタナスの大木の並木 (平成 22 年 1 月 27 日) および東西軸の通路沿いの樹林 (同年 2 月 18 日) であり、公務員住宅用地でも確認した (同年 1 月 27 日)。2 日とも確認されたこと、3 箇所でも確認されたことから、計画地内全域に生息し、定着している可能性が強い。

表 1-2 環境省 RL における希少種の区分など

区分	基本概念	定性的要因
絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 絶滅の危険が増大している種	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実考えられるもの	次のいずれかに該当する 【確実な情報があるもの】 ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している場合。 ②大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。
準絶滅危惧 (NT) : 存続基盤が脆弱な種	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	次に該当する種 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾き向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 a) 個体数が減少している。 b) 生息条件が悪化している。 c) 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 d) 交雑可能な別種が侵入している。

表 1-3 埼玉県 RDB における希少種の区分・基本概念・定性的要因

区分	基本概念	定性的要因
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) : 絶滅の危機に瀕している種	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	絶滅危惧ⅠA類 (CR=Critically Endangered) : ごく近い将来における野生での絶滅が極めて高いもの。
準絶滅危惧 (NT) : 存続基盤が脆弱な種	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	NT2 : 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 a 個体数が減少している。 b 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 c 交雑可能な別種が侵入している。

(埼玉県環境部みどり自然課 (2008) より)

表 1-4 確認された埼玉県 RDB 該当 3 種の記載状況 (抜粋)

種名および 埼玉県 RDB カテゴリー	埼玉県内の生息状況	生息地の条件
ヨタカ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	かつては県内の低山帯から山地帯の森林で幅広く繁殖していたが、低地帯での繁殖例は近年全くない。1960年代までは大宮公園や熊谷市の立正大学構内等で繁殖記録がある。台地・丘陵帯でも繁殖期に狭山丘陵、加治丘陵、高麗丘陵等の数ヶ所では、毎年記録されていたが、近年ほとんど繁殖期の記録は得られていない。	基本的には幅広い森林地帯に生息し、林床の開けた明るい林で繁殖する。
オオタカ 準絶滅危惧 (NT2)	主に台地・丘陵地～低山帯の二次林地帯を中心に、1970年代後半より繁殖確認記録が100ヶ所程で得られており、低地帯でも広域に森林が現存している所では十数ヶ所で営巣記録がある。(略)冬期は、繁殖地に留まるものと、低地帯の水辺や原野に標行するものがある。	繁殖地についてはアカマツ・モミ・スギの大木を伴った森林。警戒心が強い ため人の影響の少ない広域樹林地が必要。冬は、森林に限らず餌となる水鳥や小動物の豊富な良好な自然地が越冬場所となる。
ヤマシギ 準絶滅危惧 (NT2)	県内では低地帯から低山帯にかけて見られ、春・秋の渡りの時期以外にかつては冬鳥として渡来するものが少なくなったが、県内での越冬記録が少なくなっている。潜行性の高い種であることから、確認記録の得られにくい中で、減少している可能性が高い。ハンターからの聞き込みにおいても近年明らかに減少している。	未記載

(埼玉県環境部みどり自然課 (2008) より)

④外来種

確認種のうち、外来種はドバト1種であった。
環境省の特定外来種、要注意外来種には該当していない。

⑤確認種の選好環境および重要なエリア

・秋期調査より

いわゆる「都市鳥」と呼ばれる種のほかに、樹林性のオオタカ、エナガ、草地のような開けた空間と樹林の組合せを好むモズやホオジロ、ジョウビタキが確認できた。また、渡りの途中と考えられるヨタカやキビタキも確認できた。

・冬期調査より

いわゆる「都市鳥」と呼ばれる種のほかに、樹林性のヤマシギ、ルリビタキ、トラツグミ、シロハラ、エナガや、草地のような開けた空間と樹林の組合せを好むホオジロ、カシラダカ、ジョウビタキが確認された。

印象ではあるが、冬期には、樹林性の鳥類が増えていると考えられる。また、樹林の中でも林床で採食する種が多いことから、土壌動物は豊富であると想像される。

・春期調査より

いわゆる「都市鳥」と呼ばれる種の他に、ホオジロが定着しており、敷地内で繁殖していると考えられた。本種は、埼玉県 RDB では、「低地帯」では繁殖鳥の該当種（NT2）になっている。本調査地である「台地・丘陵地」では該当していないが、選好環境である林縁部分が貴重と考えられる。

以上のことから、敷地内の樹林環境・草地環境ともに鳥類の生息環境として機能していると考えられた。特に樹林環境は、確認種が多く、希少種も含まれていたことから、鳥類相の保全を考える際には、十分にその面積を確保し、また一部は現在のように立ち入りを制限することが望ましい。

具体的には、樹林性の鳥類については、敷地内全域で確認されているが、計画地内の樹林の中で重要なエリアを選ぶとすると、図1-1の通りである。

草地環境については、草地性の種自体が少なかったが、ホオジロが繁殖していると予想された場所が、他の草地と比較すると重要度が高いと考えられる。



図 1-1 鳥類調査からみた重要なエリア

確認された鳥類の写真



コゲラ (10月29日)



モズ (10月13日)



アオジ (10月29日)

(2) 昆虫類調査（主に大型種）

1) 調査方法

公園予定地における昆虫類（主に大型種）の生息状況を把握するために、平成 21 年秋期（10 月）、平成 22 年春期～夏期（4 月～9 月）に現地調査を行った。

調査は、敷地内を 1～2 名の調査員が踏査して行った。昆虫類については、敷地内全てをくまなく調査することは現実的ではないため、相観植生をもとに、樹林地 3 ヶ所、草地 2 ヶ所の調査地点を設定した。この他に、移動中に確認した個体も記録した。

その際、姿、あるいは捕獲した個体について、その種名、個体数、行動などを記録した。



図 1-2 昆虫類の調査地点

表 1-5 昆虫類の調査地点の概要

地点名	概要
樹林地①	敷地中心部にあり、樹林地としてまとまっている部分
樹林地②	飛び地になっており、樹林地としてまとまっている部分
樹林地③	竹林に隣接している樹林地
草地①	クズで覆われている草地で、樹林に囲まれている。
草地②	地面が舗装されている草地で、低木も混在している。

昆虫類の調査地の写真



樹林地① 8月撮影



樹林地② 8月撮影



樹林地② 林縁部分 7月撮影



樹林地③ 9月撮影



草地① 8月撮影



草地② 8月撮影

2) 調査結果

①確認種

現地調査の結果、13目91科228種が確認された。

この一覧を表1-6（次頁以降）に示す。

②希少種

環境省レッドリスト記載種は確認されなかった。

埼玉県レッドデータブックでの該当種は、ピロウドサシガメ1種(CR=絶滅危惧IA類)が、飛び地部分の林床で7月6日に確認された。

県RDBにおける絶滅危惧IA類については、前述の表1-3に示している。ピロウドサシガメについての県RDBの記載内容を表1-7に示す。



ピロウドサシガメ（平成22年7月6日）

表1-7 埼玉県RDBでのピロウドサシガメの記載内容（抜粋）

種名およびカテゴリ	摘要	分布の概要
ピロウドサシガメ <i>Ectrychotes andreae</i> 絶滅危惧IA類	植物の根際や落葉の下などに生活し、他の昆虫やヤスデなどの多足類を捕食する。生息密度は低く個体数は少ない。北海道を除く各地に分布する。	埼玉県では個体数の少ない種である。地表面を歩行して生活している。これまで東松山市、小川町、毛呂山町、嵐山町のいずれも比企地方から記録が確認されている。

（埼玉県環境部みどり自然課（2008）より）

表1-7の通り、本種は、埼玉県内での記録そのものが少なく、従来の分布域とも異なっている。十分に調査が進んでいないとも考えられるが、林床を生息空間とする本種にとって、本調査地のように長期間に渡って地表の改変を行わなかったことが、記録された原因とも考えられる。

同様に地表を生息空間とする昆虫類の保全にも繋がることから、本種の生息を維持するような林床環境の保護・保全が望まれる。

表 1-6 朝霞市基地跡地公園予定地において確認された昆虫類の一覧（平成 21~22 年度）その①

目名	科名	No.	種名	H21 秋	平成22年度調査						鳥類 調査 中の 記録	県 R D B	外 来 種
					樹林地			草地		そ の 他			
					①	②	③	①	②				
トンボ(12種)	アオイトトンボ	1	アオイトトンボ			●							
		2	オオアオイトトンボ	●	●								
	ヤンマ	3	マルタンヤンマ				●	●					
		4	ヤブヤンマ					●					
	トンボ	5	ショウジョウトンボ						●				
		6	シオカラトンボ			●	●		●				
		7	シオヤトンボ						●				
		8	オオシオカラトンボ		●	●	●			●	●		
		9	ウスバキトンボ		●	●			●				
		10	コノシメトンボ		●	●				●			
		11	ナツアカネ		●					●			
		12	アキアカネ	●						●	●		
ゴキブリ(1種)	ゴキブリ	13	ヤマトゴキブリ					●	●				
カマキリ(3種)	カマキリ	14	ハラビロカマキリ			●	●						
		15	コカマキリ					●					
		16	オオカマキリ		●	●		●	●				
シロアリ(1種)	ミゾガシラシロアリ	17	ヤマトシロアリ			●							
ハサミムシ(2種)	ハサミムシ	18	ハマベハサミムシ					●					
		19	ヒゲジロハサミムシ			●							
バッタ(25種)	コオロギ	20	マダラスズ						●	●			
		21	ヒゲシロスズ						●				
		22	シバズ						●				
		23	ミツカドコオロギ						●				
		24	モリオカメコオロギ			●	●	●					
		25	エンマコオロギ	●						●			
		クサヒバリ	26	クサヒバリ	●								
			27	キアシヒバリモドキ				●	●				
	28		ウスグモスズ		●			●	●				
	29		アオマツムシ	●	●	●	●	●					
	カネタタキ	30	カネタタキ	●			●	●	●				
	カンタン	31	カンタン					●					
	キリギリス	32	ササキリ	●			●						
		33	セスジツユムシ			●	●	●					
		34	ヒメギス			●		●	●				
		35	クビキリギリス			●		●					
		36	ウマオイ		●								
		37	サトクダマキモドキ		●	●			●	●			
		38	ヤブキリ		●	●	●	●	●	●			
		39	オンブバッタ		●	●	●	●	●				
	バッタ	40	ショウリヨウバッタ			●			●	●			
		41	トノサマバッタ			●							
		42	クルマバッタモドキ						●				
		43	コバネイナゴ			●							
		44	ハラヒシバッタ			●		●	●				
ナナフシ(1種)	ナナフシ	45	ナナフシモドキ		●	●	●	●	●				
カメムシ(51種)	アオバハゴロモ	46	アオバハゴロモ				●						
		47	ベッコウハゴロモ			●	●	●					
	セミ	48	アブラゼミ		●	●	●		●				
		49	ツクツクボウシ		●	●	●	●	●				
		50	ミンミンゼミ		●	●	●	●	●				
		51	ニイニイゼミ		●	●	●	●		●			
		52	コガシラアワフキ		●	●	●	●					
	ツノゼミ	53	トビイロツノゼミ		●	●							
	オオヨコバイ	54	ツマグロオオヨコバイ			●	●	●					
		55	オオヨコバイ			●		●					
	キジラミ	56	クワキジラミ		●	●	●	●	●				
		57	ベニキジラミ							●			
	アメンボ	58	ヒメアメンボ						●				
	マキバサシガメ	59	アカマキバサシガメ					●					
	ゲンバウムシ	60	プラタナスゲンバイ						●	●			
		61	アワダチソウゲンバイ		●	●	●	●					

表 1-6 朝霞市基地跡地公園予定地において確認された昆虫類の一覧（平成 21~22 年度）その②

目名	科名	No.	種名	H21 秋期	平成22年度調査						県 R D B	外 来 種	
					樹林地			草地		そ の 他			鳥 類 調 査 中 の 記 録
					①	②	③	①	②				
カメムシ(続き)	サシガメ	62	ヨコヅナサシガメ		●				●			○	
		63	シマサシガメ		●			●	●				
		64	ヒロウドサシガメ			●						CR	
		65	アカシマサシガメ							●			
	66	クロモンサシガメ							●				
	67	イトカメムシ						●					
	ナガカメムシ	68	ジュウジナガカメムシ			●							
		69	オオメカメムシ			●	●						
		70	ヒメナガカメムシ			●			●				
		71	オオモンシロナガカメムシ			●				●			
	72	コバネヒョウタンナガカメムシ			●								
	メダカナガカメムシ	73	メダカナガカメムシ			●	●	●					
	ホシカメムシ	74	ヒメホシカメムシ			●	●	●	●	●			
	オオホシカメムシ	75	オオホシカメムシ		●	●	●		●	●			
	ホソヘリカメムシ	76	ホソヘリカメムシ			●		●					
	ヘリカメムシ	77	ホオズキカメムシ			●							
		78	ハリカメムシ			●	●	●					
		79	ホシハラビロヘリカメムシ				●	●					
		80	ツマキヘリカメムシ			●			●				
	ヒメヘリカメムシ	81	スカシヒメヘリカメムシ			●		●					
		82	アカヒメヘリカメムシ			●			●				
		83	ブチヒゲヘリカメムシ			●							
	マルカメムシ	84	マルカメムシ			●	●	●	●				
	ツチカメムシ	85	ツチカメムシ			●							
	キンカメムシ	86	アカスジキンカメムシ			●			●				
	ノコギリカメムシ	87	ノコギリカメムシ							●			
	カメムシ	88	アカスジカメムシ			●			●				
		89	ブチヒゲカメムシ						●				
		90	ハナダカカメムシ		●		●	●	●				
		91	ナガメ			●			●	●			
		92	クサギカメムシ			●				●			
		93	ツマジロカメムシ					●					
		94	チャバネアオカメムシ			●	●	●	●	●	●		
		95	エビイロカメムシ			●			●	●			
	ツノカメムシ	96	エサキモンキツノカメムシ			●							
	アミメカゲロウ(2種)	ウスバカゲロウ	97	ウスバカゲロウ		●							
ツノトンボ		98	ツノトンボ				●	●	●				
コウチュウ(43種)	ハンミョウ	99	トウキョウヒメハンミョウ			●							
		100	ハイイロゲンゴロウ					●					
	クワガタムシ	101	クワガタ			●							
	コガネムシ	102	アオドウガネ						●				
		103	セマダラコガネ						●				
		104	マメコガネ			●							
		105	ヒラタハナムグリ			●			●				
		106	ヒメトラハナムグリ			●			●				
		107	コアオハナムグリ					●	●	●			
		108	シロテンハナムグリ			●			●				
		109	ムネアカチビナカボソタマムシ						●				
	110	クズノチビタマムシ			●	●	●						
	111	サビキコリ		●				●					
	カツオブシムシ	112	ヒメマルカツオブシムシ						●				
	ジョウカイモドキ	113	ツマキアオジョウカイモドキ			●							
	テントウムシ	114	ナナホシテントウ			●	●	●	●				
		115	ナミテントウ		●	●		●	●				
		116	キイロテントウ			●		●	●				
117		ダンダラテントウ			●								
118		ヒメカメノコテントウ					●						
119		トホシテントウ		●	●	●							
120		ハムシダマシ		●	●			●					
121	モモトカミキリモドキ					●	●						
カミキリムシ	122	ゴマダラカミキリ		●			●	●					

表 1-6 朝霞市基地跡地公園予定地において確認された昆虫類の一覧（平成 21～22 年度）その③

目名	科名	No.	種名	H21 秋 期	平成22年度調査						鳥 類 調 査 中 の 記 録	県 R D B	外 来 種
					樹林地			草地		そ の 他			
					①	②	③	①	②				
コウチュウ(続き)	ハムシ	123	キバラルリクビホソハムシ			●							
		124	アカガネサルハムシ				●						
		125	アオバネサルハムシ			●							
		126	イモサルハムシ			●							
		127	ドウガネサルハムシ			●							
		128	ヨモギハムシ					●					
		129	ウリハムシ			●		●					
		130	クロウリハムシ				●			●			
		131	クワハムシ		●	●		●	●				
		132	アトボシハムシ				●						
		133	イノコヅチカメノコハムシ				●			●			
		134	コガタカメノコハムシ					●					
		135	フタクサハムシ			●							○
		136	カオジロヒゲナガゾウムシ		●								
		137	ブドウハマキチョッキリ				●		●				
138	スグリゾウムシ			●									
139	コフキゾウムシ		●	●	●	●							
140	オジロアシナガゾウムシ				●	●							
141	トホシオサゾウムシ			●		●							
ハチ(29種)	ツチバチ	142	キンケハラナガツチバチ			●			●				
		アリ	143	キイロシリアゲアリ			●						
	アリ	144	ムネボソアリ			●			●				
		145	アミメアリ		●	●	●	●	●				
		146	トビイロシワアリ					●					
		147	クロオオアリ			●		●	●				
		148	クロヤマアリ		●	●	●	●	●				
		149	トビイロケアリ			●	●						
		150	アメイロアリ			●		●					
		151	サクラアリ			●							
		ドロバチ	152	オオフタオビドロバチ				●	●				
			153	ムモントックリバチ					●				
	154		スズバチ				●						
	スズメバチ	155	ムモンホソアシナガバチ		●		●						
		156	セグロアシナガバチ					●					
		157	キボシアシナガバチ						●				
		158	コアシナガバチ			●		●	●				
		159	オオスズメバチ			●							
		160	ヒメスズメバチ			●							
		161	クロスズメバチ					●					
アナバチ	162	アメリカジガバチ				●	●				○		
	163	キゴシジガバチ							●				
	164	コクロアナバチ			●			●					
	165	サトジガバチ						●	●				
166	アオスジハナバチ					●							
167	クマバチ			●	●	●	●						
168	セイヨウミツバチ						●			○			
169	コマルハナバチ			●	●		●	●					
170	トラマルハナバチ			●		●							
ハエ(24種)	ガガンボ	171	ベッコウガガンボ		●								
		172	エゾホソガガンボ		●	●		●	●				
		173	ヤチガガンボ		●	●	●		●				
	174	ハグロケバエ			●		●						
	175	アメリカミズアブ			●	●					○		
	ムシヒキアブ	176	アオメアブ						●				
		177	シオヤアブ			●		●	●				
		178	マガリケムシヒキ		●	●	●	●					

表1-6 朝霞市基地跡地公園予定地において確認された昆虫類の一覧（平成21~22年度）その④

目名	科名	No.	種名	H21 秋期	平成22年度調査						鳥類 調査 中の 記録	県 R D B	外 来 種
					樹林地			草地		そ の 他			
					①	②	③	①	②				
ハエ(続き)	ツリアブ	179	クロバネツリアブ					●	●				
	アシナガバエ	180	マダラアシナガバエ		●			●					
	ハナアブ	181	ホソヒメヒラタアブ			●		●	●				
		182	キタヒメヒラタアブ			●		●	●				
		183	ホソヒラタアブ		●	●	●	●					
		184	キアシマメヒラタアブ			●		●					
		185	スイセンハナアブ			●		●	●			○	
		186	シマハナアブ			●		●					
		187	アシブトハナアブ			●		●					
		188	タカサゴハラブトハナアブ				●						
	189	シマアシブトハナアブ			●								
	190	オオハナアブ			●								
	191	キンアリスアブ			●								
ヤチバエ	192	ヒゲナガヤチバエ					●						
クロバエ	193	ツマグロキンバエ			●		●						
フンバエ	194	ヒメフンバエ			●								
チョウ(34種)	ハマキガ	195	ナカジロハマキ					●					
	メイガ	196	シロオビノメイガ			●	●	●					
		197	マメノメイガ					●					
		198	ダイミョウセセリ			●				●			
	セセリチョウ	199	チャバネセセリ		●								
		200	キマダラセセリ					●					
		201	イチモンジセセリ	●	●	●	●	●	●				
		202	アオスジアゲハ		●	●		●	●				
	アゲハチョウ	203	カラスアゲハ							●			
		204	ナガサキアゲハ		●	●	●						
		205	クロアゲハ			●		●					
		206	ナミアゲハ		●	●		●	●	●			
	シロチョウ	207	モンキチョウ	●							●		
		208	キチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●		
		209	スジグロシロチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●		
		210	モンシロチョウ	●		●							
	シジミチョウ	211	ルリシジミ			●	●	●	●		●		
		212	ツバメシジミ			●	●						
		213	ウラナミシジミ	●						●			
		214	ベニシジミ	●		●			●				
		215	トラフシジミ			●							
		216	ヤマトシジミ	●		●	●	●		●			
	ウラギンシジミチョウ	217	ウラギンシジミ	●		●	●	●	●	●			
	タテハチョウ	218	ツマグロヒョウモン	●		●		●					
		219	ヒメアカタテハ	●									
		220	アカホシゴマダラ			●		●				◎	
		221	ゴマダラチョウ		●								
		222	イチモンジチョウ		●	●				●			
223		コムシジ	●	●	●	●	●	●	●	●			
224		キタテハ	●										
ジャノメチョウ	225	ヒメジャノメ		●									
	226	サトキマダラヒカゲ			●					●			
シャクガ	227	ユウマダラエダシャク			●								
カノコガ	228	カノコガ						●					
13	91		228	20	52	138	67	99	87	40	8	1	10

※外来種の「◎」は環境省の要注意外来生物

③注目種すべき種

・チョウ類

確認された 34 種には、希少種は含まれず、ほとんどがいわゆる一般種であった。そのうち注目すべき種としては、イチモンジチョウ、トラフシジミが挙げられる。

イチモンジチョウ（タテハチョウ科）

本種は、林縁性のチョウである。本調査では、樹林地①②で、5～8月に観察され、定着していると考えられた。

埼玉県昆虫誌 I（埼玉昆虫談話会 1998）によれば、「近年は、住宅地周辺の雑木林が減少しているためか、市街地周辺での観察例は少ない」とされている。幼虫の食樹はスイカズラやウグイスカグラであり、これらの生育する樹林を維持することが望ましい。

トラフシジミ（シジミチョウ科）

本種は、林縁性のチョウであり、樹林地②で 5 月に 1 個体が確認された。

前述の埼玉県昆虫誌によれば、「低地から低山帯にかけて広く分布するが、個体数はどこでも多くない」とある。幼虫の食樹は、マメ科、ミズキ科、ユキノシタ科など多岐にわたっている。

定着の状況は分からないが、今後注目すべき種と考えられる。

注目種の写真



イチモンジチョウ
H22. 5. 25 樹林地②



トラフシジミ
H22. 5. 25 樹林地②

・バッタ類

確認された 25 種には、希少種は含まれず、ほとんどがいわゆる一般種であった。そのうち注目される種としては、ヤブキリ、キアシヒバリモドキ、トノサマバッタ、ショウリョウバッタモドキが挙げられる。

ヤブキリ（キリギリス科）

本種は、4～7月まで、5ヶ所すべての調査地で確認され、樹林地②では幼虫も確認された。

埼玉県昆虫誌でも「平地から山地にかけて広く分布し、市街地のちょっとした雑木林でもよ

く声を聞く」とあり、本調査地では、普通種であった。

しかし、バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑（日本直翅類学会編 2006）によれば、「幼虫や羽化して間もない成虫は林縁やブッシュの花上などの低いところにいるが、成育するに従って、樹上の上方に登ったり深いブッシュに入ったりして、とらえるのは困難になる」とあり、林縁と樹林の両方の環境が連続している存在していることの指標となる。しかも飛べないことから、土地の改変などに弱い種であることも、緑地の保全の指標になると考えられる。



ヤブキリ（成虫♀）

H22. 7. 6 草地①



ヤブキリ（幼虫）

H22. 5. 25 樹林地②

キアシヒバリモドキ（クサヒバリ科）

本種は、草地①で4～6月に複数の個体が確認されたほか、樹林地③でも6月に確認されている。草地①では幼虫も確認されたことから、世代交代をしていると考えられる。

埼玉県昆虫誌では、「鳴かない小さなコオロギのために一般に目に触れにくいだが、実際には比較的普通に産する」とあるが、朝霞市内での記録はない。

市内で確実に生息している希少な場所であることに加え、本種もヤブキリと同様に飛べないことから、土地の改変などに弱く、緑地の保全の指標になると考えられる。



キアシヒバリモドキ（成虫♀）

H22. 5. 25 草地①



キアシヒバリモドキ（幼虫）

H22. 4. 27 草地①

トノサマバッタ（バッタ科）

本種は、草地②において9月に1個体が確認された。確認した場所は小規模な草地であり、計画地北側に隣接する草地から飛来したものと考えられる。

埼玉県昆虫誌では、「平地から山地まで見られる普通種であり、県内の分布も広い。河川敷に多く、造成地でも見られるが、その数は減少してきているようだ」とある。調査地内でも1例のみの確認であり、個体数が多くないと考えられる。

一方で、非常に知名度の高い種であり、公園として整備した際には、子どもの観察対象として取り上げやすいこと、草地の保全や管理の際の指標として位置づけられることなどの理由から、注目すべき種と考えられる。

ショウリョウバッタモドキ（バッタ科）

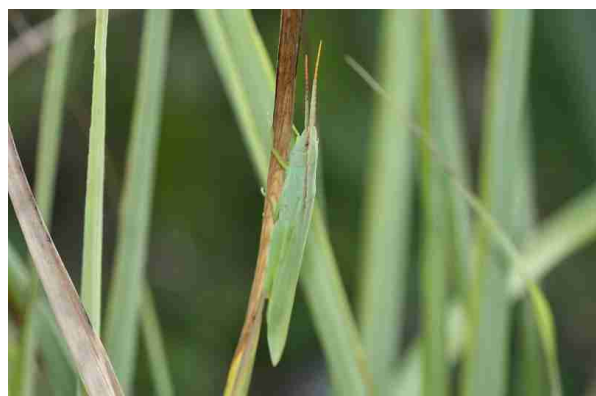
本種は、調査地に隣接する北側の草地で複数個体が確認された。

埼玉県昆虫誌では、「やや暖地性の種であり、県内での採集例はあまり多くない。ススキやイネ科植物などの丈がやや高い草地で見られ、河川敷や湖畔に多い。当初、数が減少してきている種と考えていたが、造成地でも多数採集することができたことから、むしろ分布を広げている可能性もある」とある。

このように、現時点での分布についての情報が少ないこと、調査地内では確認されていないことなどから、今後も注目すべき種と考える。



トノサマバッタ（成虫）
H22.9.7 樹林地②



ショウリョウバッタモドキ（成虫）
H22.9.7 計画地北側に隣接した草地

・トンボ類

確認された12種には、希少種は含まれず、ほとんどがいわゆる一般種であった。そのうち注目される種としては、マルタンヤンマが挙げられる。

マルタンヤンマ（ヤンマ科）

本種は、8月に樹林地③と草地①の上空を飛翔する個体を確認した。

埼玉県昆虫誌では、「これまで大宮台地以東の低地帯からは未記録で、浦和市、桶川市といった大宮台地の他、所沢市、滑川町などの丘陵地で記録が散見され」とあり、分布に関する情報が不足している。

本種の成虫は、一般的にうす暗い林やその林縁を好むが、本調査地で生息が確認された藪状の空間は、公園化に伴い消失する可能性がある。そのため、公園整備の際にはそのような環境を保全することや、開園後の生息状況についてのモニタリングが望まれる。

なお、本種の産卵は、抽水植物の繁茂する池沼などで行われるが、本調査地内にはそのような場所は見出せなかったため、敷地外で発生しているものと考えられる。

④重要なエリア

・樹林地②

埼玉県 RDB 絶滅危惧 IA 類であるビロウドサシガメが生息していた林床環境、イチモンジチョウやトラフシジミ、ヤブキリなどの注目すべき種が生息していた南側の林縁環境が、特に重要であると考えられる。

・草地①

主にクズが繁茂している草地には、キアシヒバリモドキやヤブキリなどの注目すべき種が生息しており、隣接した樹林地との林縁にはマルタンヤンマが見られた。

(3) 小動物調査

1) 調査方法

公園予定地における小動物（爬虫類、両生類、その他）の生息状況を把握するために、鳥類調査・昆虫類調査時に、補足的に現地調査を行った。

調査は、敷地内を1～2名の調査員が踏査して行った。その際、姿を確認した個体について、その種名、個体数、行動などを記録した。

2) 調査結果

① 確認種

現地調査の結果、爬虫類で1目2科2種、両生類で1目1科1種、クモ類が4科8種が確認された。なお、クモ類については、偶発的に確認されたもののみであり、専門の調査員により調査を行うことで、確認種は飛躍的に向上すると考えられる。

この一覧を表1-7～9に示す。

表1-7 朝霞市基地跡地公園予定地において確認された爬虫類の一覧（平成21～22年度）

目名	科名	種名	樹林地			草地		その他	県RDB
			①	②	③	①	②		
トカゲ	カナヘビ	カナヘビ	●	●		●	●	●	
	トカゲ	ニホントカゲ		●					
1	2	2	1	2	0	1	1	1	

表1-8 朝霞市基地跡地公園予定地において確認された両生類の一覧（平成21～22年度）

目名	科名	種名	樹林地			草地		その他	県RDB
			①	②	③	①	②		
カエル	アマガエル	アマガエル	●					●	
1	1	1	1	0	0	0	0	1	

表1-9 朝霞市基地跡地公園予定地において確認されたクモ類の一覧（平成21～22年度）

目名	科名	種名	樹林地			草地		その他	県RDB
			①	②	③	①	②		
クモ	コガネグモ	ギンメッキゴミグモ		●					
		シロオビトリノフンダマシ			●				NT
		ワキグロサツマノミダマシ			●				
	ジョロウグモ	ジョロウグモ						●	
	ヒメグモ	オナガグモ		●				●	
	ハエトリグモ	マミジロハエトリ						●	
		ヤハズハエトリ					●		
		アリグモ						●	
	4	8	0	2	2	0	1	4	

②希少種

環境省 RL 記載種は確認されなかった。

埼玉県 RDB での該当種は、クモ類のシロオビトリノフンダマシ 1 種 (NT=準絶滅危惧) が、樹林地③で 7 月 6 日に確認された。

埼玉県 RDB における準絶滅危惧については、前述の表 1-3 に示している。シロオビトリノフンダマシについての県 RDB の記載内容を表 1-10 に示す。



シロオビトリノフンダマシ (樹林地③)

表 1-10 埼玉県 RDB でのシロオビトリノフンダマシの記載内容 (抜粋)

種名およびカテゴリー	摘要	分布の概要	その他
シロオビトリノフンダマシ <i>Cyrtarachne nagasakiensis</i> 準絶滅危惧 (NT)	主にスキの葉の裏に ることが多く、(略)夜間、 草間の低い位置に同様の 網を張る。成体出現期は 7~9 月。	台地・丘陵帯に生息するが、 数は少ない。東松山市、鳩 山市、日高市、飯能市で記 録があるほか北本市、上尾 市、川越市で生息が確認さ れている。	増網のために広いスペ ースが要求されるため、 丘陵地の草原や山林が 失われれば生息不可能 となる。

(埼玉県環境部みどり自然課 (2008) より)

③注目すべき種

・ニホントカゲ (トカゲ科)

本種は、樹林地②で 6 月に確認された。埼玉県 RDB では「都市化が進むにつれ、その分布が局地化する傾向にある」とされている。本調査地でも 1 個体が 1 回のみ記録されただけであり、周辺市街地と比較して良好である本敷地内が分布の「拠点」として機能すべきと考える。

④重要なエリア

・樹林地③

埼玉県 RDB で準絶滅危惧のシロオビトリノフンダマシが確認されたことから、今後の生息状況をモニタリングする意味でも重要なエリアであると考えられる。しかし、本種については、敷地内全体での分布状況が把握されていないことから、より詳細な調査を行うとでさらに生息密度の高い場所が発見される可能性もある。

・樹林地②

注目すべき種であるニホントカゲが、南側の林縁部で確認された。同じ場所はカナヘビも多数生息していたことから、この場所を保全することで、両種の生息が確保されることが考えられる。

(4) 希少種、注目すべき種のプロット図
 希少種及び注目すべき種を下図に整理した。

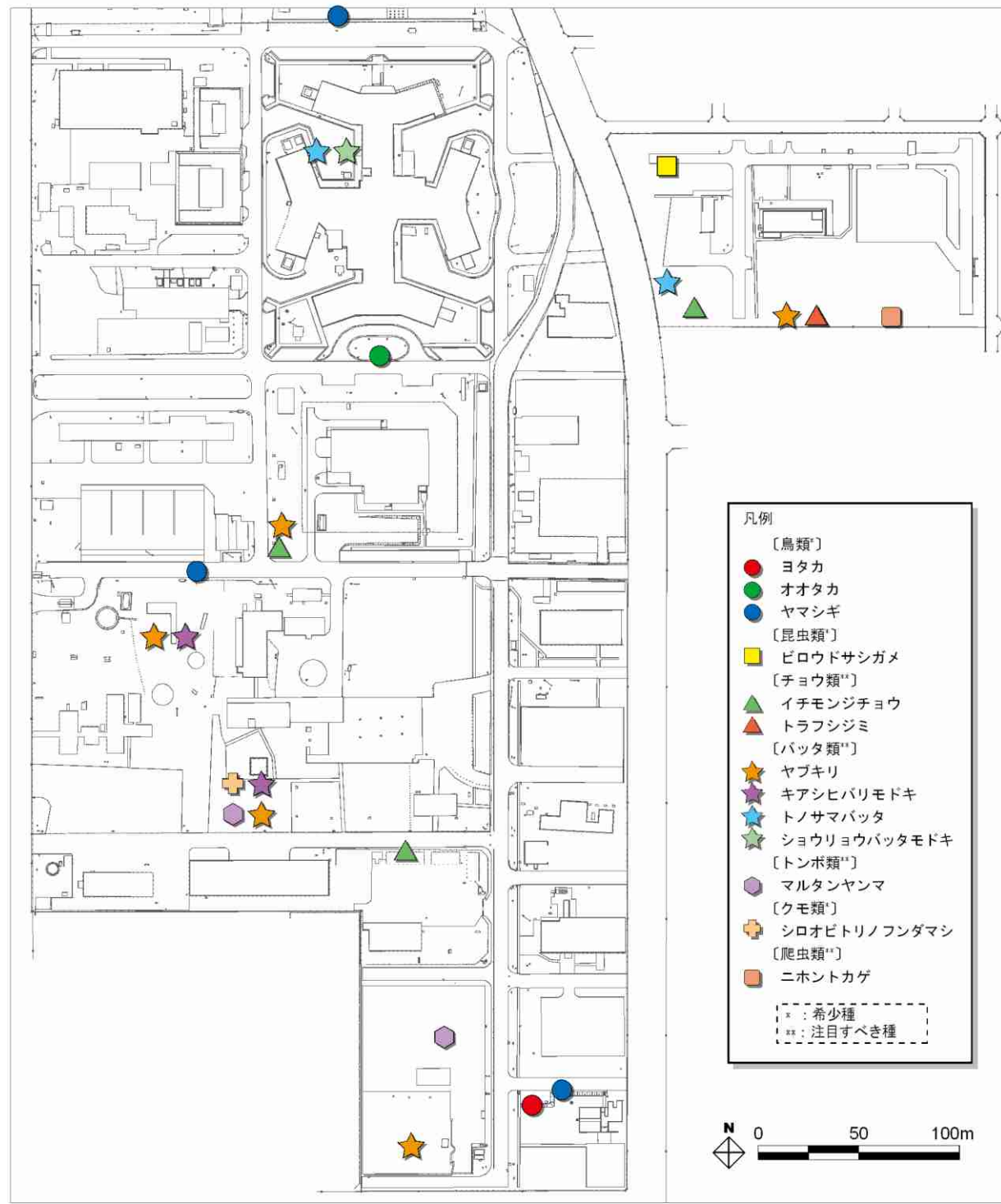


図1-3 希少種、注目すべき種のプロット図

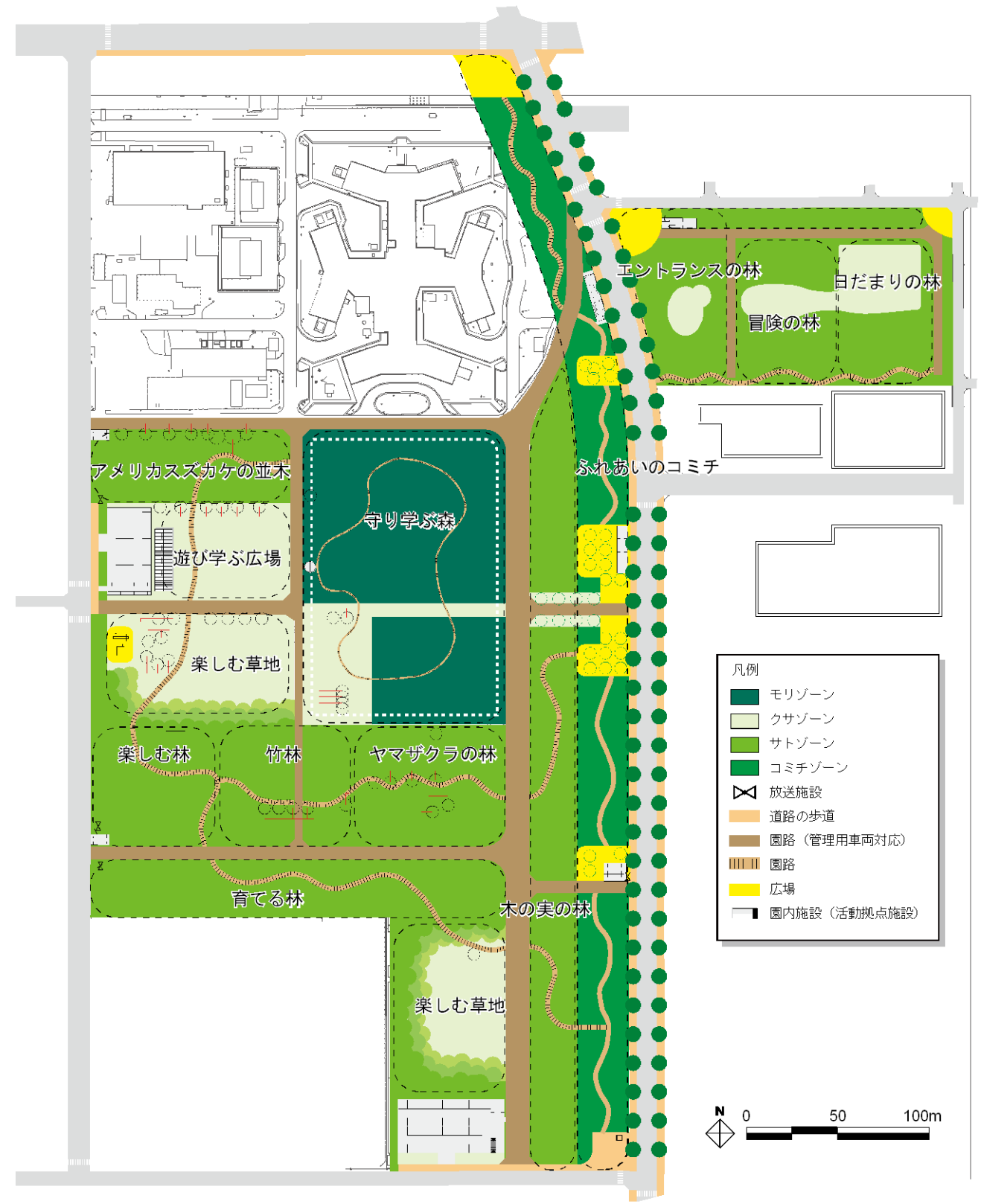


図1-4 整備基本計画図